

令和7年度 県立土浦第一高等学校自己評価表

全日制

項目		詳細
目指す学校像	生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを理解し、人格形成を図り、自主的に多方面の知識と体験に触れ、物事について構造的に考え表現できるような成長を目指す。 ・自己肯定感を持って主体的に行動し、思いやりを持って協働し、多様性を認めた国際的視野を養うことを目指す。 ・自らの将来像を明確に意識し、より高い進路実現を目指す。
	教員	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら仕事の効率化を図り、心の余裕を持って業務内容の改善を行うことで、WLBの向上を目指す。 ・にリスクリングを行うことで、自身の成長から自己肯定感を強めて、得られた知識を生徒及び同僚に還元し、全ての生徒の進路希望が実現することを旨とする。
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・全人的な成長を実現する中高6か年新進路指導計画によって、国内外から注目を集める日本一の学校を目指す。 ・整理整頓が行き届き、生徒が積極的に学べる場所、楽しく、安心して、やるべきことに集中できる場所を目指す。 ・プロセス、ガバナンス、コンプライアンス、危機管理、いじめ対応などについて徹底的な管理を目指す。 ・保護者、同窓生、地域、国内外の教育機関などとの連携を強化し、より良い教育基盤の構築を目指す。
三つの方針		具体的目標
三つの方針 (スクールポリシー)	入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・志及び好奇心があって、何事にも興味関心を持ち、自ら考え、行動できる生徒。 ・自己分析、自己管理、時間の管理、健康管理について常に意識する生徒。 ・自己の適性について考えることができ、その能力を存分に生かしたいと考える生徒。
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・創意工夫を生かした質の高い授業及び考査を実施し、主体的な学習態度を育成する。 ・特別活動や学校行事を推進し、自主、協働、感謝の精神を育成する。 ・主体的に行動しながらも、協働の価値を理解し、多様な考え方を受け入れる国際的視野を育成する。 ・自己管理、時間の管理、健康・食事・睡眠の管理について定期的に啓発し、常に高い意識を持って生活できるように支援する。 ・キャリア教育、探究教育、多言語教育、グローバル教育などを含めた総合的教育のさらなる深化を図る。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを分析・理解し、高い目標を持ち、妥協のない進路が選択できること。 ・人格形成を通じて、自己肯定感を持ち、あらゆる場面でスマートに対応できること。 ・本校を卒業して広い世界に出た時に自分に自信を持てるようにすること。 ・土一ネットワークを最大限に活用し、様々なことに挑戦できること。

別紙様式2 (高)

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>高度で難易度の高い学習内容に対応すべく、主体的な学習スタイルを目指し、深い理解につなげている。OBOGを活用した進路指導など、生徒自身の将来の希望を実現すべき様々な取組を実施している。その結果、多くの大学合格などの成果を挙げ、生徒の進路実現をかなえている。</p> <p>一方、自信をなくしてしまう生徒もおり、ICT等の活用を含め、学習のサポート体制の充実が必要である。</p> <p>また、働き方改革の取り組みとして、授業改善、考査や採点の在り方の工夫、外部指導者の導入など新しい取り組みも必要とされている。</p>	<p>主に生徒に関すること</p>	<p>①基礎学力と応用力の向上：各教科の基礎知識を自主的にしっかりと身につけると同時に、論理的思考力・想像力・分析力・判断力・表現力・課題解決力といった応用的な力も高め、大学受験や将来の進路選択に備える。</p> <p>②自主的・協働的な学びの実践：授業内外で自ら課題を見つけ、調べ、考察し、発表する探究型学習を積極的に行い、グループワークやディスカッションなどを通して協働的な姿勢を養う。また、部活動や文化祭・体育祭といった学校行事に取り組むことで、仲間との絆を深め、責任感やリーダーシップを育てる。各教育活動においてしっかりした目標管理とスケジュール管理を行うことで充実度や満足度を高める。</p> <p>③グローバルな視野の獲得：修学旅行や留学、異文化交流、英語でのコミュニケーションの機会を活かし、国際社会での活躍と地元への貢献のための広い視野を養い、多文化理解を深める。国内外の様々な大会（模擬国連、ビジネスコンテスト、プログラミングコンテスト、数学オリンピック、科学の甲子園等）に積極的に参加し、チャレンジ精神やグローバルな視野の育成を図る。</p> <p>④人格の形成と社会性の育成：礼儀、思いやり、ルール遵守、自律的な行動、ストレスマネジメントやタイムマネジメントなど、人としての基本的な態度を身につけ、将来の社会生活に必要な人間力を高める。また、いじめを許さない心や、他者を思いやる心を育成するとともに、豊かな人間関係づくりを支援する。</p> <p>⑤進路実現に向けた主体的な準備：上記全てを網羅しつつ、自己分析と自己理解を通じて自分の興味・関心を深めながら、職業体験や進路ガイダンス、キャリアパスポートの活用、探究活動などを通して、自らの将来像を描き、進路実現に向けた目標を設定して努力する。</p>	<p>A</p>
	<p>主に教職員に関すること</p>	<p>⑥主体的・対話的で深い学びの実現：生徒の主体性を引き出す授業を設計・実践し、アクティブラーニングや協働学習を積極的に取り入れて、思考力・判断力・表現力を育成する。深い学びの場を提供することで、生徒による授業満足度3.5以上を目指す。</p> <p>⑦生徒理解と教育的支援の深化：生徒一人ひとりの個性・発達段階・家庭環境等を的確に理解し、学習面・生活面・進路面でのきめ細やかな支援を行うとともに、関係機関との連携も図る。キャリアパスポートの活用によるキャリア教育、進路支援を通して進路実現を支援する。</p> <p>⑧継続的な授業改善と研鑽の推進：「導入～授業～確認」を基本とした授業の流れを確立する。授業評価や研究授業、同僚との協働による授業研究などを通して、自らの授業力を絶えず見直し、向上させる姿勢を持つ。</p> <p>⑨ICTを活用した教育の充実：ICT機器やデジタル教材を効果的に活用し、学習の個別最適化や協働的な学びを実現するとともに、生徒の情報活用能力の育成に努める。自らが職場のICTリテラシーを高め、作業効率の向上に努める。</p> <p>⑩セルフマネジメントとコンプライアンスの確保：健康管理、身だしなみの管理、リスクリング、時間管理やWLBの向上に努め、教職員として持続的にパフォーマンスを発揮できるよう心身のバランスを保つ。教育者としての職責と公共性を自覚し、法令遵守・個人情報保護・ハラスメント防止などに留意した誠実な行動を実践する。</p>	<p>A</p>
	<p>主に学校に関すること</p>	<p>⑪学校ビジョンの明確化と共有：学校の方向性を明示し、生徒ファーストの精神を持って、生徒・教職員・保護者が一体となって目標に向かう風土をつくる。6か年（全日制中高）進路支援計画を構築し、オールラウンド教育、リーダーシップ育成を目指す。</p> <p>⑫生徒の多様な学びを支える教育環境の整備：明るくて清潔な教室、ICT機器や施設・設備の充実、安心・安全な学習環境づくりを進め、生徒一人ひとりが主体的に学びに向かえる空間を整備する。また、インクルーシブ教育や心のケアにも配慮した支援体制を構築する。</p> <p>⑬教育活動の質的向上と学力・人間力の育成：授業改善、探究活動、国際理解教育、部活動などを通じて、生徒</p>	<p>A</p>

別紙様式 2 (高)

		<p>の学力・思考力・表現力だけでなく、主体性や協働性、豊かな人間性を育成する教育活動の充実を図る。</p> <p>⑭教職員の専門性向上と働きやすい職場づくり：教職員一人ひとりの資質・能力の向上を支援する体制を整えるとともに、業務の効率化・分担による働き方改革を推進し、教職員が安心して教育活動に取り組める環境をつくる。学校全体として法令順守に努める。</p> <p>⑮地域との連携・情報発信による信頼と共創の学校づくり：保護者・地域・企業・大学などとの連携・協働を深め、地域に開かれた学校としての役割を果たす。また、教育活動や成果について積極的に情報発信し、学校への理解と信頼を高める。</p>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
教務部	生徒の充実した学校生活と進路実現に向けた教育環境の整備	<p>生徒が、時代の流れに左右されない、確かな基礎学力と応用力を向上できるよう、</p> <p>(1)日々の授業と考査が滞りなく、かつ効果的に実施されるよう配慮して運営する。</p> <p>(2)学年における活動と部・委員会活動が適切に連動して行われるよう、行事を企画する。</p> <p style="text-align: right;">①②③④⑤</p>	A	A	<p>・考査日程と学校行事が密集しているため、行事の精選がを検討する。</p> <p>・方法・内容が長年更新されていない業務があるので、整理し、場合により廃止して教員の負担軽減を図りたい。</p> <p>・特編時間割の作成、学校行事等、附属中との連携において、双方の報告・連絡・相談をより丁寧に行う。</p>
	業務改善による教員の WLB 向上	<p>PDCA サイクルに基づき、</p> <p>(1)教務部の各業務の目的を明確にし、生徒ファーストで仕事に当たれるよう心がける。</p> <p>(2)行事や通常業務の運営方法を見直し、教員が自己研鑽に取り組めるよう支援する。</p> <p style="text-align: right;">⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑬⑭</p>	A		
	附属中と連携した円滑な校務運営	<p>学校全体の行事や日常の学校生活において、附属中と高校の教員が、</p> <p>(1)共通で実施できる活動の企画、使用できる文書などの作成は、協働して進める。</p> <p>(2)合同で広報活動を行い、6か年を意識した教育内容を小中学生とその学校・保護者に伝える。</p> <p>(3)報告・連絡・相談を密に行い、双方の生徒・教員の動きが見えるようにする。</p> <p style="text-align: right;">⑪⑫⑬⑮</p>	B		
渉外部	家庭、地域社会と学校の連携を深め、協力体制を確立する。	各学年後援会と学年との協力体制を強化し、充実した高校生を支える。	A	A	<p>・会費変更など臨機な対応を適切に行う。</p> <p>・目標設定など再検討する。</p>
		PTA 行事への参加を呼びかけ、PTA 行事を活性化する。	A		
生徒支援部	自ら考え、自ら動く姿勢を育成する。	校則の在り方や SNS の適切な活用法などについて生徒自身で考え、基本的な生活習慣を自律的に確立させると共に、いじめのない健全な学校生活を送ることができるよう支援する。	A	A	<p>・生徒自身による自律・自治の意識を更に高める。</p> <p>・法改正に伴う自転車交通違反行為の認識向上</p> <p>・情報・論点の共有、把握</p> <p>・教員と生徒の更なる連携</p> <p>・HR 担任との連携</p>
		交通ルールを遵守し、適切な交通マナーを実践できるよう指導すると共に、保護者や地域の方とも連携し、適宜見守り活動を行い、交通事故のない安全通学環境を整える。	A		
	生徒の実態をよく把握し、生徒の自発的な活動を支援する。	学年・部活動・委員会・分掌間の連携を密にし、生徒の実態把握に努める。	B		
		生徒の発想や創意を活かすべく、学校行事運営や部活動を支援する。	A		
		キャリアパスポートの作成及び活用、探究活動への積極的な支援を行う。	B		

別紙様式 2 (高)

		円滑な課外活動が実施できるよう、行事及び部活動に関する情報の共有及び諸規定の見直しを行う。 ⑬⑮	B		・実態を踏まえた継続的対応	
		多様化する生徒のニーズに応えながらも、持続可能な部活動のあり方を構築すべく、活動実態を踏まえ、部数の精選を行うと共に、各部の活動内容及び実績を可視化し、学校内外に発信する。 ⑪⑫	B		・長期的視野に基づく体制の構築、的確な情報発信	
		附属中学校と連携した教育活動の充実を図る。	中・高職員及び生徒が連携して、登下校時の自転車ヘルメットの着用の推奨、交通マナー向上の啓発に努める。 ④⑪⑮		A	・交通事故ゼロを目指す
		中・高生一人ひとりが、年次ごとにリーダーシップを発揮し、充実した行事運営や生徒会活動が行えるよう支援する。 ⑪⑬	A		・中・高校生による協働への支援	
教育相談室	教育相談体制を確立し、生徒を多角的に支援する。	教育相談室の広報に努めるとともに、生徒や保護者が相談しやすい環境や体制を整える。⑫⑬⑮	A	A	・相談室だよりを保護者面談資料で配布し、ホームページにも掲載した。講演会などを通し、生徒のカウンセリングに対する抵抗を減らすよう努めた。	
		各学年や各校務分掌、SC、SSWと連携し、生徒の悩みや問題の解決に向け支援する。 ④⑦⑩	A		・SSWも活用し、学年の教員と連携して生徒を支援することができた。	
保健厚生部	安全で衛生的な生活環境を整備する。	清掃計画を作成し、生活環境が衛生的に保たれるよう分担区清掃を責任をもって実施する。 ④⑩	A	A	・校舎改築が始まるので掃除用具や清掃分担も一新させていきたい。 ・防犯対策も徹底する。 ・性教育講演会の内容を保健の教科書と連動させて行う。	
		校内の環境を安全・清潔に保つために定期的に安全点検を行い安心して生活できる環境を整える。 ④⑩⑫	B			
		避難訓練を実施し、防災力の向上に努める。 ⑩⑫	A			
	生徒の健康管理を支援する。	検診機関等が行う活動の準備・実施・事後措置に対し、協力・指導する。 ⑩⑫	A			
		自他の生命尊重を基盤とした健全な倫理観を育み、将来の実りある自己実現に向け、性教育に関する保健指導を実施する。 ⑪⑫	A			
進路指導部	各学年や教科の学習指導を支援する。	効果的な個別指導を行うため、学年と共同で生徒の家庭学習実態を把握し学級担任を支援する。 ③④⑤	B	A	・家庭での学習時間・方法や基本的な生活習慣の確立 ・予備校の教員研修や入試研究会への参加を更に呼	
		生徒の進路希望に即した授業や考査の水準を維持するため、教科担当者が外部の研究会に積極的に参加するよう呼びかける。また各教科での考査問題検討をすすめ、学校全体として作問力の	A			

別紙様式 2 (高)

		向上に努める。 ⑧⑨⑭			びかける。
	生徒が高い目標をもち、自らの進路希望を実現できるように支援する。	将来の生き方や生活、進路や職業について考えるための学年行事を支援する。また、HPで講演会等の進路関係行事の状況を発信し、保護者との連携に努める。 ⑤⑦⑮	A		・高い目標をもつ生徒の状況をふまえて教職員に質の高い情報を提供する。
		生徒が自分の将来をデザインするための資料や図書の提示・充実に努める。 ⑤⑫	B		・進路指導部が中心となった指導体制の充実
		進路情報交換会を開き、進路指導に関する課題の発見、その解決、指導法の改善に努め、教職員集団の共通理解に基づいた指導を推進する。そのため、学年との緊密な連携を図る。 ⑦⑭	B		
	適切な進路情報の提供に努め、生徒が自らの将来をデザインできるようにする。	生徒が志望校を検討する資料として、進学要覧・合格体験記を作成し、生徒面談等への活用を図る。 ⑤⑫	A		・総合型や学校推薦型選抜の定員拡大をふまえ、指導体制の充実に努め、要覧の改訂・活用を図る。
		生徒や学年の状況に応じて適切な進路情報を提供し、生徒と保護者が進路について共通の認識をもつことができるよう支援する。 ⑤⑫	A		
図書視聴覚部	授業の展開に対応した資料を充実させる。	各教科を対象に購入希望図書の調査をし、蔵書の充実を図る。 ①⑭	B	A	・書籍の価格上昇のため、予算を確保する。 ・書架が不足しているため、補充する。 ・事務室との連携により、開館時間を維持する
		蔵書の効率的利用のため、コンピュータによる蔵書管理を行う。 ⑨⑫	A		
	読書・作品鑑賞等を通して教養を深め、豊かな人間性を養う。	生徒の教養や人間性を高めるにふさわしい資料を精選し、継続的に収集してゆく。 ②③④	A		
		生徒の読書意欲を喚起するための情報発信や図書の配置の工夫を行う。 ⑨⑫	A		
		生徒の読書生活を高めるための企画等を工夫する。 ②④	A		
	授業及び自主学習の場として、利便性・快適性を高める。	図書館・視聴覚室の美化に努め、利用マナーの遵守について指導する。 ④⑫	A		
		課外授業等の授業の場として視聴覚室を開放する。 ⑨⑫	A		
		生徒の自主学習を支援する場として、図書館を開館する。 ②⑫	A		
	放送業務を着実にを行い、学校行事を円滑に進める。	放送機器の充実と保全に努める。 ⑨⑫	A		
		放送業務のマニュアル化を進める。 ②⑨	A		
中高のバランスに配慮した選書を行う。 ⑦⑪		A			
附属中との連携を図る。	情報発信や図書の配置・企画等において、中高の連携を強化する。 ⑦⑪	B			
ICT活用推進室	情報教育の環境を整備し、授業でのICT活用を進める。	事務室・教科・学年と連携し、ICT環境の整備に取り組む。 ⑨⑫	A	A	・生成AIの適切な活用に向け、校内ルールおよび保護者承諾体制の整備をさらに推進する。 ・教職員のICT・生成AI活用スキルの向上を目的とした研修体制の充実を図る。
		全学年での一人一台端末を使った授業に合わせ、ICT活用を更に推進し、生徒の学習理解や学習法の改善を図る。 ②⑨⑫	A		
	情報モラルに関する意識を高める	講演会などを通して、情報モラル教育を推進し、情報機器や生成AI、SNS等の適切な使用についての生徒の意識向上を図る。 ④⑨⑩	B		
	情報セキュリティに関する意識を高める。	情報セキュリティやウイルス対策等に対する教職員や生徒の意識向上を図る。突発的に起きるトラブル等に対しても対応出来るような用意しておく。 ④⑨⑩	A		
業務の軽減を進める。	ワークフローの導入に合わせ、デジタル化を進め、業務の軽減を進める。 ⑨⑫⑭	A			

別紙様式2 (高)

探究学習推進室	課題探究活動を推進する。	課題探究活動を行うにあたり、大学教員や社会人の講義、留学生や大学生とのワークショップ、海外大学との連携、県内外の他校との交流等を通じて、生徒の興味・探究心を喚起し自ら考える態度を育成する。 ②③⑤⑬	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の基礎探究学習を通して学んだ問題解決手法を、身近な問題の解決に反映させるべく、多様な探究活動をさらに推進する。 ・外部の発表会等に積極的に参加することを通して、探究学習を深化させる。
	人的ネットワークの構築を推進する。	起業家教育プログラム、海外高校との交流、海外フィールドワーク等を通じて、世界に目を向け、将来活躍するために必要なネットワークを主体的に構築する態度を育成する。 ③⑬⑮	A		
	幅広い視野を養う活動を推進する。	文化講演会、企業・研究所訪問、OBOGガイダンス、進路講演会等を通じ、自らの課題発見とその解決を支援し、幅広い視野を持った生徒を育成する。 ③⑥⑬	A		
	グローバル人材の育成を推進する。	学校行事や各種委員会活動等を通じ、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考し、協力・協働しながら課題を解決し、新たな価値を生み出しながらグローバル社会に貢献することができる生徒を育成する。 ②③⑦⑬	B		
日本館学習館統括室	自習場所として活用する。	進路指導部、各学年、特に第3学年と連携し、自習の場所として相応しい環境を整える。 ⑫	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の快適な自習場所の提供ができた。 ・各行事、会議等の利用は滞りなく行えた。 ・部活動の活動以外は限定的な活用であった。 ※旧日本館内部の破損により公開や利用が不可の状態
	各種行事に活用する。	学校・学年行事、研修会や会議等による使用予定を把握調整し、学習館の利用を効率的に行う。 ⑫	A		
	旧日本館の活用を図る。	旧日本館活用委員会と連携し、学習・特別活動や学校行事等の利用について検討し環境を整える。 ⑪⑫	B		
		学校休業日における地域社会との交流等のための利用について、旧日本館活用委員会と検討する。 ⑪⑫	※		
第1年次	基本的な生活習慣と授業中心の学習スタイルを確立する。 探究型学習を習慣化する。	挨拶、礼儀、時間管理など日々の生活の中で、当たり前のことを指示されることなく、着実に行うことができる力を養う。 ②④	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の徹底と能動的な態度の育成 ・多様な経験を通じた広い視野の獲得 ・様々な活動に参加し、責任ある立場として全うする態度の育成 ・進路意識の更なる醸成
		授業を中心として、全ての教科・科目において生徒を主体的に参加させる授業を展開する。自ら取り組み考える姿勢を培うとともに、知見と視野を広げ、幅広く教養を身につけ、「志」を实践する礎とする。 ①②⑥⑧⑨	A		
		自ら考え、試行錯誤しながら問題を解決する習慣を獲得し、質の高い自学を促す。 ②⑤	A		
	高い目標を設定し、それに向けて自らを律し努力する姿勢を養う。社会に貢献する人材としての基盤を育成する。	進路講演会、学部学科紹介授業などを通じ、将来の目標を可能な限り高く設定ができるよう意識を喚起するとともに、自身の知識や経験を社会に還元する意識を醸成しながら、粘り強く自分の進路を切り開く力を身につける。 ⑤⑦⑮	A		
		ホームルーム活動や個別面談を通じて、自己認識および他者との相互交流をとおした視野の拡張と、社会のリーダーとしての素養の育成を目指す。 ②④⑤⑪	A		
学校での活動に積極的に参	委員会や部・同好会の活動、国内外の様々な大会などへの積極的な参加を促し、多様性を受容し、	A			

別紙様式 2 (高)

	加し、コミュニケーション能力と多様性の受容および対応力を育成する。	思いやりの心を育み、集団内での強いリーダーシップを育成する。 ②③④⑪			
		生徒相互の教え合いを活発化させ、知の伝達のネットワーク化を目指す。特に、成績上位者には他者に教える意義をしっかりと伝え、情報発信者として機能させるとともに指導的な立場を経験することによる成長を期待する。 ①②⑥	A		
		探究学習を通じ、自ら考え、課題を設定し、問題解決を図ることでコミュニケーション能力の向上、言語化、プレゼンテーション能力の育成を図る。 ②⑤⑬	B		
第 2 年次	基本的な生活習慣と授業中心の学習スタイルの確立と探究型学習の深化を目指す。	挨拶、容儀、時間管理など日々の生活の中で、当たり前なことを高いレベルで実践する。自立し、自律して、行動する力を醸成する。 ②④⑤	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・より高いレベルでの自立・自律した態度の育成 ・学校内外、国内外での経験や交流を通じて得た知見・見識を、自己の成長へ結びつける取組が必要 ・学校の中心的立場として活動してきた中で、他者を尊重し、協働する態度の更なる醸成 ・進路実現に向けて個に応じた支援の更なる拡充
		授業を中心とした学力の養成および興味関心を喚起する。自ら課題意識をもち、自調自考し、解決する姿勢を培う。知見と視野を広げ、幅広い教養を身につけて、「志」を実践する礎とする。 ①②③⑤⑥⑧	A		
		自調自考し、試行錯誤を繰り返し、問題を解決する学びの習慣を通じた、質の高い自学を促す。 ①②⑤⑥	A		
	高い目標をもつ者同士が認め合い、刺激し合い、高め合える集団をつくり、社会に貢献しうる魅力ある人材を育成する。	研究室訪問、OB・OG ガイダンス、進路講演会などの進路行事を通して、将来の目標を可能な限り高く設定ができるよう意識を喚起する。広く社会に目を向け、自身の知識や経験を社会に還元する意識を醸成しながら、自分の可能性を信じ、進路を切り開く力を身につける。 ②③⑤⑩⑫	A		
		ホームルーム活動や個別面談を通じて、自己認識および他者との相互交流をとおした視野の拡張と、社会のリーダーとしての素養の育成を目指す。 ②③④	A		
	他者との積極的関与と他者受容による、コミュニケーション能力育成と多様性を醸成する。	委員会や部・同好会の活動への積極的参加により、多様性を受容し、思いやりの心を育み、集団内での強いリーダーシップを育成する。 ③④⑤	A		
生徒相互の教え合い、学び合いにより、知の伝達のネットワーク化を図る。他者に物事を教える意義を理解させ、情報発信者として機能させるとともに指導的な立場を経験することによる飛躍を促す。 ②④⑥⑫		A			
異文化交流を積極的に行い、国際社会で活躍しうる素養を育む。	修学旅行や海外研修、外国人大学生との交流などを通して、知見を広げ、見識を深める。多文化へ理解を通してグローバルな視野の獲得と世界で活躍する意欲を醸成する。 ③⑫⑬⑮	A			
第 3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣と授業中心の学習スタイルによる実力伸長を支援する。 ・自立、自走を支援する。 ・探究型の学習を促す。 	日常生活における、挨拶、容儀、時間管理などの当たり前なことを高いレベルで実践する。自立した行動様式に立脚した確かな実力の獲得と伸張を目指す。 ①②③④⑤	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校における3年間の学びの目標は概ね達成され、本質的な深い理解と幅広い教養を獲得するとともに、切磋琢磨による
		授業で獲得した基礎学力と興味関心の喚起を基に自らの課題意識を、自調自考し、解決する学びの基礎を構築する。 知見と視野を拡張し続け、幅広い教養の獲得による「志」の実現を目指す。 ①②③⑤	A		

別紙様式2 (高)

		<p>自調自考と試行錯誤を経て問題解決に至る探究型の学びを獲得し、学習の質を高める。 ①②③④⑤⑫</p>	A		<p>成長と自己実現を図ることができた。</p>
	<p>・高い目標の実現に向け、自立し自律する姿勢を育成する。 ・社会に貢献する人材としての基盤を醸成する。</p>	<p>高い目標の実現に向け、自ら考え、自らをコントロールすることができるようにする。 広く社会に目を向け、自身の知識や経験を社会に還元できるように自立自走によって自分の進路を切り開く力を身につける。 ①②③④⑬</p>	A		
		<p>ホームルーム活動や個別面談を通じて、自己認識の高揚と他者との相互交流とおした視野の拡張を図り、社会のリーダーとしての素養を獲得する。 ①②③⑫</p>	A		
	<p>他者との積極的関与と他者受容とおしたコミュニケーション能力醸成と多様性の受容を育成する。</p>	<p>委員会や部・同好会の活動のリーダーとしての自覚を持ち、積極的な行動とともに、多様性の受容や、思いやりの心、集団内での強いリーダーシップを醸成する。 ②③④⑪</p>	A		
		<p>生徒相互の教え合いや学び合いによる、知の伝達ネットワーク化をおして学びを深化させる。 成績上位者が他者に教え、受容される経験をおして、学びとコミュニケーションの飛躍を図る。 ②③④⑪⑫⑬</p>	A		
国語	<p>基礎学力の確かな定着を図る。</p>	<p>授業計画を生徒と教員で共有し、主体的な予習・復習の習慣をつける。 ②⑤⑥⑧⑪⑬⑭</p>	A	A	<p>・生徒がより主体的に予習や復習に取り組めるような指導の在り方を引き続き研究していく。</p>
		<p>小テストへの取り組み等を通して言葉の特徴やきまり及び語彙への関心を高める。 ①②⑤</p>	A		
	<p>探究型の学習スタイルを目指し、自ら学ぶ力の育成を図る。</p>	<p>多様なテキストに触れ、情報の取り扱いに関する知識及び技能を高める。 ⑤⑥⑨⑫</p>	A		
		<p>幅広く古典に親しみ、伝統的な言語文化に対する理解を深め、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持つ。 ⑤⑥⑬</p>	A		
		<p>読書及び教科横断的な共同学習や表現活動を授業に取り入れることで、言語運用能力を総合的に伸ばす。 ⑤⑥⑬</p>	A		
		<p>生徒のニーズに応える特別講座及び学力不振の生徒に対する補講等を実施し、幅広い学力層に対応した指導を行い、生徒一人一人の学力伸張を支援する。 ⑤⑪⑬</p>	B		
	<p>授業デザイン・評価・指導方法を共有する。</p>	<p>中学校との系統性を考慮したうえで、考査や模擬試験等の分析を行い、分析結果をもとに授業デザイン及び指導法を改善・共有する。 ⑤⑥⑧⑪⑬⑭</p>	B		
<p>単元ごとに授業内容を共有と、考査問題の協議・検討を行い、生徒の学力伸張と的確な学力評価を実践する。 ⑤⑧⑬⑭</p>		A			
<p>ICT機器を活用し、学習者一人一人の学びを深める。 ⑤⑥⑨⑫</p>		A			
地歴	<p>世界史の学習を通して、国際社会における日本人のあり方を学び、社会に貢献できる生徒の育成を図る。</p>	<p>世界史の通史だけでなく、テーマ史的な観点からも歴史的事象を取り上げ、近現代世界に対する多角的で柔軟なとらえ方を身に付けさせる。 ①②③⑤⑥⑧</p>	A	A	<p>・「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した教科指導をさらに充実させていきつつ、「知識・技能」も</p>
		<p>世界各地の文化とその成り立ちを学ぶことにより、我々と異なる文化や考え方を理解・尊重する態度を育成する。 ①②③⑤⑧</p>	B		

別紙様式2 (高)

		世界史の基礎的な知識を身に付け、それをもとに自ら考える力を育成し、表現する力を養成する。 ①②⑧	A		<p>疎かにしない指導をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見通した系統的・継続的な指導の在り方を研究し、必要に応じて改善を進めていく。 ・生徒がより主体的に授業に参加できるような指導の在り方を研究する。 ・生徒の自主学習が進むような課題を提示できるような研究を進める。
我が国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察させるとともに歴史を追究する資質を養い、歴史的思考力を培う。		各時代の国際環境や地理的条件などと関連付け、世界の中の日本という視点で考察させる。 ①②③⑤⑥⑧	A		
		地域社会の歴史と文化を扱うことにより、郷土に対する関心を高め、愛する心を育てる。 ①②③⑤⑥⑧	A		
		基礎的な知識や史料を解読する力をもとに、論述することを通じて、歴史的な見方や考え方を身に付けさせる。 ①②⑧	A		
		系統的な学習を通して基本的な知識の定着を図り、地誌的な学習を通して興味・関心を持って具体的に現代世界を考察する態度を養う。 ①②③⑤⑧	A		
現代世界で発生する種々の事象に対し、自ら考える姿勢を養うとともに地理的な見方・考え方の育成を図る。		授業進度の適切な時期を考慮して、調査や作業学習を体験することで地理的な技能を養う。 ①②③⑤⑥⑧	B		
		3年次では大学入試に対応した論理的な思考力や表現力を育成する。 ①②⑧	A		
		中学校との系統性を考慮したうえで、調査や模擬試験等の分析結果を活かして授業をデザインする。 ⑦⑬	A		
授業デザイン・評価・指導方法を改善する。		ICT機器を活用し、学習者の学びを深める。 ⑨	A		
公民	人間と社会の在り方についての見方・考え方の理解を深め、現代の諸課題を追究・解決する姿勢と能力を養う。	公共で必要とされる基礎的な知識を身に付け、それをもとに諸問題に対して自ら考える態度を育成する。 ①②⑤	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人／有権者として必要な素養を育む指導を研究していく必要がある。 ・生徒がより主体的に授業に参加できるような指導の在り方を研究する。
		公共的な空間と人間的な関わり、個人の尊厳と自主・自立、人間と社会の多様性と共通性、人間としてのありかた・生き方についての理解と思索を深めさせる。 ①②④	B		
	政治・経済・国際関係などを客観的に理解し、関心を持って考察する態度を育成する。	民主主義の本質に関する理解を深め、現代社会における政治・経済・国際関係などについて理解させ、基礎的な知識を身に付けさせるとともに、それらについて主体的にとらえ、考えさせる。 ①②④	A		
	授業デザイン・評価・指導方法を改善する。	中学校との系統性を考慮したうえで、調査や模擬試験等の分析結果を活かして授業をデザインする。 ⑦⑬	A		
ICT機器を活用し、学習者の学びを深める。 ⑨		A			
数学	生徒の発達段階に応じた質の高い授業を展開するよう授業改善する。	綿密な授業計画表を作成し、進度計画表を生徒に配布することで生徒の学習を促すとともに、それぞれの学年の方策に従って基礎学力の定着を図る。 ⑤⑥⑦	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・内進生と高入生の授業進度について引き続き丁寧な検討を重ねながらすべての生徒にとって質の高
		授業を中心に据えた学習計画を生徒に立てさせ、授業を重視しながら「予習→授業→復習」の学習習慣に基づいた日常の自己学習を徹底させる。 ⑤⑥⑦	B		

別紙様式2 (高)

		科目担当者の連携を密にし、授業の進度や定着度合いの確認・分析を行い、学習指導に活かす。 ⑤⑥⑦⑧⑨	A		い学びが実現できるよう、最善の方法を取り入れていく。 ・生徒の自主学習が進むような課題の提供の仕方について研究していく必要がある。
		基本事項の理解を徹底させると共に、試験前等の問題演習を十分に行う。 ⑤⑥	A		
		授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、その結果を学習指導に活かす。 ⑤⑥⑦	A		
		3学年の生徒には、基本事項を整理し、発展的な応用力の養成と定着に努め、難関大学に合格できるための思考力を養う。 ①②③⑥	A		
		進学目標別の対策を研究するためのガイダンスや課外を実施する。また集団化を図り、生徒相互の教えあいを活性化する。 ①②③⑥	A		
理科	自然に対する関心や探究心を高め、科学的に探究する能力と態度を育てる。	授業展開の中で、生徒の興味・探究心を喚起する実験・観察教材の研究に努め、考察へ向けての展開を工夫すると共に発展的な内容や話題を提供する。 ①②⑥⑦	A	A	・観察・実験を効果的に取り入れ、生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成を意識した教科指導のさらなる充実を図る。 ・学習指導要領および共通テストを踏まえた指導法の研究を深め、3年間を見通した系統的・継続的なより良い指導の在り方を研究し、改善を進めていく。
		単元毎の観察・実験を行い、観察・実験に積極的に取り組ませ、現象の見方や探究心を養う。また、その内容についてのレポート作成や発表を通して、学力の定着を図るとともに科学的な思考力を養う。外部講師による「科学実験講座」を実施し、発展的内容に触れさせることで科学的探究心を育てる機会を与える。 ②③⑤⑬	B		
	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な自然観を育成する。 基礎学力を充実させ、3年においては、特に生徒の進路を考慮して応用力の養成を図る。	自然や生活の中で目にする事物・現象がどのような仕組みになっているのかを授業内で取り上げることにより、科学を学ぶ楽しみや科学的な姿勢を育成し、科学的現象に対する学習意欲を高める。 ②⑥⑦⑪	B		
	授業内容や生徒の習熟度に応じた教材・問題等を協議検討して、学習指導に生かす。演習問題等を精選し、授業や添削指導などを通して、基礎学力を確実に定着させる指導を行う。 ①⑤⑪⑭	A			
指導法や評価を研究し、授業改善を図る。	3学年の生徒には、基礎学力定着の確認を行うとともに、発展的な応用力の養成と定着に努める。良質な演習問題や試験問題の作問に努め、高いレベルの学力や思考力を育成し、最難関大学の受験へ対応できるようにする。 ①⑤⑪⑭	A			
	ICTの利活用や評価の改善、指導法や授業展開の研究をし、生徒の科学的に探究する力や科学的な思考力・判断力・表現力を伸ばせる授業をデザインする。 ⑫⑬⑭	A			
保健体育	運動や学習を通して、協調性を高め、仲間との関わりの中でそれぞれの力を伸ばす意識を持たせるように指導す	集団種目を多く取り入れることにより、仲間と協力・連携して活動する態度や、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとする態度を育成する。 ①②④⑤	A	A	・目標は概ね達成できた。 ・次年度の課題としては「さらなるドリル・タスクゲームの開発」「軽微な怪我
		保健において、自分の身体への理解を深めて命の大切さに気づき、自己愛や他者への思いやりの心が育つように指導する。 ①②④⑤	A		

別紙様式 2 (高)

	る。						
	運動の実践を通して、体力の向上、困難なことにも立ち向かう態度や能力を育成する。	苦手なことにも取り組みやすいように指導方法を工夫しながら、主体的に学ぶ態度や思考力・判断力・表現力の評価につなげるなど、生徒の内面が成長できるような働きかけをする。 ①②④⑤	A				を防ぐ準備運動のさらなる充実」が挙げられる。 ・教科内で教材を共有し、より良い授業の改善を図る。
		個人スキル向上のために、ドリルや発問の仕方を工夫し、発展したゲームが展開できる力をつける指導を行う。 ①②④⑤	B				
	運動・スポーツ活動における健康・安全指導を充実させる。	熱中症対策、用具の使用法、準備運動等の心身にケアなど、毎回の注意喚起と観察を徹底する。 ①⑦	A				
		健康、安全に関する知識と自己管理能力を育成する。 ①④	B				
	よりよい授業を行うために教科内でスライドの共有や、チームティーチングを行う。	保健の授業で使用するスライドを共有し、改善を図る。 ⑥⑧⑨	A				
		体育の授業では教員間で意見を出し合いながら計画的に授業を行う。 ⑥⑧⑨	A				
芸術	豊かで幅の広い芸術活動や作品に音楽と美術それぞれの視点から向き合うことで、芸術文化に親しむ資質と能力を育成する。	社会の情勢や生徒の実態に沿った題材選択を行い、個性や感性を尊重した個々のレベルでの指導を充実させる。 ①⑤⑥⑦⑧⑬	A	A			・中高一貫教育を見通した題材設定や指導方法の研究を行う。 ・個性や感性の伸長を理解し、互いに刺激を受けながら、協働・表現できる活動内容を吟味する。
		学習指導要領に則り、6年間の中高一貫教育を見通しながら、生徒の発達段階を考慮した教材や授業内容及び指導方法を改善する。 ①②⑤⑥⑦⑧⑪⑬	A				
		生涯学習の礎となるような芸術作品に向き合える心と豊かな情操性を育めるよう支援する。	表現活動では生徒の主体的な意見や希望を尊重し、鑑賞では感受性を豊かに、想ったことや感じたことを素直に共有できる関係性を育て、芸術の諸能力の向上を図る。 ②④⑥⑬				
		自己表現の意図を他者に分かりやすく伝える発表の能力やコミュニケーション能力を向上させる。 ②④⑥⑬	B				
		芸術的表現の良さを感じ取り、理解しようとする中で、自身の人間的な成長につながることを実感できるよう支援する。 ①②⑤⑥⑫⑬	A				
家庭	自立した生活者に必要な家族・家庭、衣食住、消費生活などに関わる基礎的・基本的な知識と技能を育成する。	実験や実習、観察や調査などの実践的・体験的な学習活動を計画的に実施する。 ①⑧⑫	B	A			
		生活を主体的に営むために必要な基礎的・基本的な知識や技能を問う課題や試験を計画的に実施し、ワークシート等を活用して学習内容の理解度や技能の習熟度を継続的に記録・評価する。 ①②⑦	A				
		ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動等とおして、習得した知識・技能を実生活の課題解決に活用・応用する機会を設ける。 ②④⑮	A				
	生涯を見通し、世界に目を向け、生活上の課題を解決する	生徒が ICT を活用しながら、情報収集・分析・整理を行い、主体的・対話的に学習する場面を効果的に設定する。 ②⑥⑨	B				

別紙様式 2 (高)

	ための思考・判断・表現する力を育成する。	生徒が考察したことを、科学的な根拠や理由を明確にして、論理的に表現できるような場面を効果的に設定する。 ②⑥⑤	A		整備し、視覚的な提示や成果物の共有を可能にすることで、生徒の ICT 活用を促進する。
		ルーブリックなどを活用し、思考・判断・表現のプロセスや成果物を多面的に評価する。⑥⑦⑧	A		
	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築のために生活を主体的に創造しようとする態度を育成する。	生徒が家族や地域社会の方々、専門家、海外の方々など、多様な人々と協働し、家庭や地域をより良くするための活動を主体的に計画・実践できるような環境を整える。 ③④⑬	A		
		グループワークや協働学習をとおして、互いの意見や価値観を尊重し、合意形成を図りながら課題解決に取り組む場面を効果的に設定する。 ⑥⑫⑮	A		
		地域連携活動や社会貢献活動への参加を促し、社会の一員としての当事者意識や参画意識を高められるよう支援する。 ②④⑮	A		
情報	課題設定や課題解決のための思考力を養う。	課題探究活動と連携し、情報技術の有用性を理解させながら、実際に課題設定と解決方法を探る活動をとおして必要とされる思考力を養う。 ①②	A	A	・ 共通テストでの高得点取得における具体的な策を改善していく。 ・ 他教科や探究の発表につながるプレゼンテーションの実践を情報の授業内でも行っていく。
		アルゴリズムを表現し、プログラミングの基礎を学習することとおして、論理的な思考力を育成する。 ②⑦	A		
	情報社会において適切に活用できる ICT 技術を養う。	ワープロ、表計算ソフト、パワーポイントを活用した課題研究と各種発表会をとおして、情報の伝達力を育成する。 ②⑥⑦	A		
		情報やメディアの特性を理解し、情報セキュリティや情報モラルの重要性をより実感出来るような題材を適宜選択し、生徒の素養を育成する。 ①②⑤	A		
	情報技術を用いた効果的なコミュニケーション能力を養う。	プレゼンテーションや質疑応答をとおして、効果的なコミュニケーションを図るための情報技術、情報デザインを実際に活用し、自らのコミュニケーション能力向上を目指す態度を養う。 ②	B		
積極的に授業改善を行う。	生徒のスキル向上を可能にする授業改善を行う。 ⑥⑧⑨	A			
英語	英語科全体の目標 分かりやすい授業へ授業改善し、実践的コミュニケーション能力を養う。	教材研究を深めて、生徒の知的好奇心を刺激し、充実感のある、分かりやすい授業を展開する。 ①②③⑤⑥⑧⑨	A	A	・ 教師・生徒双方の、AI の効果的な活用と濫用の防止 ・ 学習アプリの効果的な活用 ・ デジタルデバイスと紙教科書・ノートのバランスの取れた活用
		英語を通し、将来国際社会で活躍する日本人として必要となる、国内外の文化・社会の諸側面についての理解を深められるように題材の扱い方を工夫する。 ②③⑤⑥⑧⑨	A		
		読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく伸長できるような授業を展開する。 ②③⑤⑥⑧⑨	A		
	第1学年の目標	授業を中心に予習復習の徹底を図り、自立した学習の援助をする。 ②③⑥⑧⑨	A		
	積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、英語の確かな基礎力を養う。	語彙力を向上させるテストを学年を通して実施する。 ①	A		
		英語に親しめるサイドリーダーを選択・活用して、読解力の基礎の育成を図る。 ①②⑥	A		
		辞書指導の充実等によって、自立した学習力の育成を図る。 ⑤⑥	A		
	第2学年の目標	授業内にペアワーク・グループワークを頻繁に取り入れ、英語の活用能力の向上を図る。 ②⑤⑥	A		
	第1学年で培った生徒の英語力を土台にし、ディベートなどを通して、個々の生徒の英語運用能力と共に	A			

別紙様式2 (高)

第1学年で培った英語の基礎力をさらに伸長させ、確かな英語力を養う。	論理力を伸ばす授業を展開する。 ⑥⑦⑧		・サイドリーダーの精選とテスト問題への効果的な活用
	表現力を高めるための文法・語法確認小テストを継続実施する。 ①	A	
	文法的に正確であり、論理的な英文が書ける力を養う授業を展開する。 ①②⑥⑨	A	
	英語による自己表現を促すことで、世界的な視野を持つ人材の育成を図る。 ②③⑥⑧⑨	A	
	知的好奇心を刺激するようなサイドリーダーを選択・活用して、読解力の向上を図る。 ①②	A	
第3学年の目標	第1、2学年で培った英語力を更に伸張させ、自立した学習者を育成する。 ②⑥⑧⑨	A	
生徒の進路希望実現のために、難関大学入試に対応できる確かな実践力を養う。	大学入試問題を研究し、生徒の進路希望に即した考查を実施する。 ⑧⑨	A	
	国公立大学個別学力試験に対応できるような英文要約や英作文等の個別指導を充実させる。 ⑧⑨	A	

※ 評価規準：A：目標が十分達成された B：ある程度の成果が見られた C：取り組んだ D：取り組んだが課題を残した E：取り組まなかった